

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行:関西学生サッカー連盟
2011年7月2日発行



第35回 総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント
2011年7月3日(日) 1回戦



PHOTO: 飯嶋玲子



前年度優勝
駒澤大学

第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメントがいよいよ開幕。
今年の栄冠はどこに輝くのか!?
ここ関西で、熱い戦いが始まる・・・

第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント 1回戦

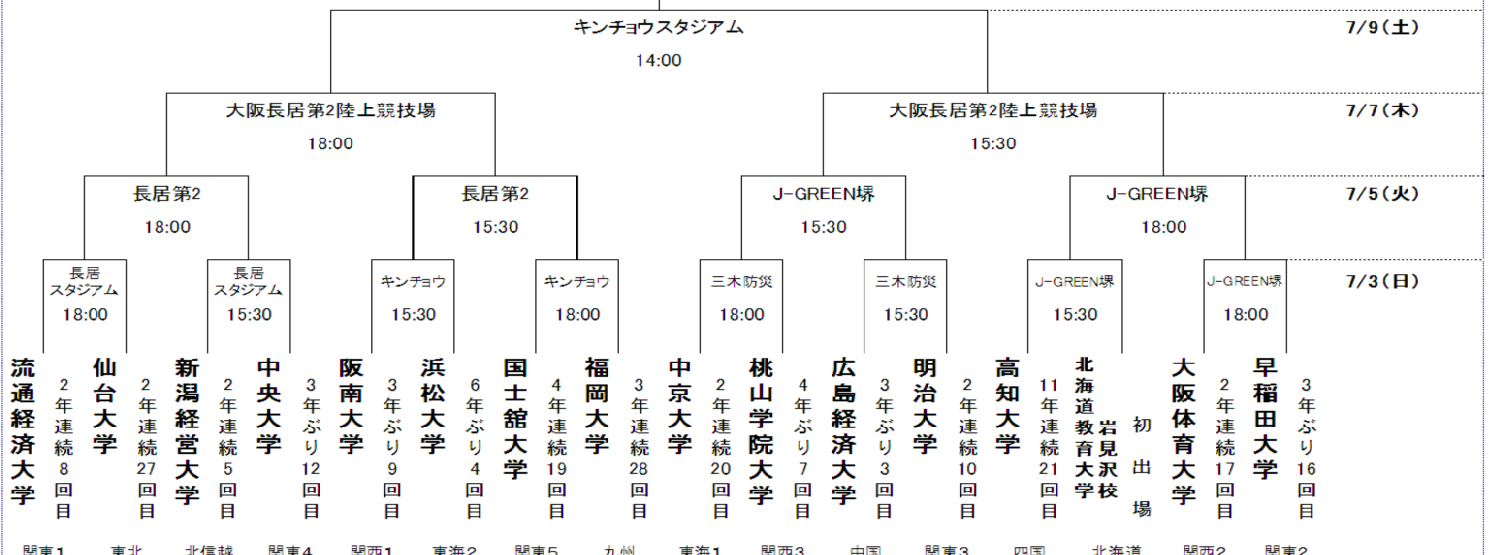
2011年度 第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
(PRIME MINISTER CUP 2011)

【会場】

キンチョウスタジアム・大阪長居スタジアム
大阪長居第2陸上競技場
J-GREEN堺・三木総合防災公園陸上競技場



☆決勝戦は読売テレビにて7/10(日)深夜放送予定



※何らかの理由により、決勝戦が7月9日(土)に行えなかった場合、7月10日(日)に同会場、同時段で行う予定です。

新潟経営大学 VS 中央大学 15:30 KICK OFF 於：大阪長居スタジアム

創部10年目で5度目の出場となる新潟経営大は、4年前のベスト8以上の成績を目指す。元J2徳島のDF⑦金尚佑(4年)は、経験豊富な左サイドバック。運動量があり、ドリブル突破が魅力で「左サイドからでもゲームをコントロールできる」と杉山学監督。精神的支柱として、チームを引っ張る。FW陣も個性的な選手がそろそろ。献身的な動きでチームを鼓舞する⑩田中剛(4年)、高さを生かしたプレーを見せるFW⑬青木秀(3年)を中心に、昨年からのメンバーが多く残る。杉山監督は、「耐えて、少ないチャンスを生かしたい」と意気込む。

一方の中央大は、好守にバランスが取れており、安定感のあるメンバーがそろっている。攻撃の中心は、昨年のU-19(19歳以下)日本代表のMF⑩六平光成(3年)。2年生からエースナンバーを背負い、広い視野と高い技術力を持つ。佐藤健監督は「個人技で局面を開くことができる」。六平を起点に、FW⑨林容平(4年)ら攻撃陣をうまく絡ませたいところだ。DF④大岩一貴(4年)らを中心とする守備陣も堅く、佐藤監督は、「守備から攻撃に、うまく切り替えられれば、チャンスはある。一つ勝って勢いに乗りたい」と初戦に臨む。

(読売新聞大阪運動部 安田栄一)

流通経済大学 VS 仙台大学 18:00 KICK OFF 於：大阪長居スタジアム

タレント豊富な流通経済大は、優勝候補の呼び声が高い。GK①増田卓也(4年)、DF③山村和也(同)、DF⑥比嘉祐介(同)と、U-22(22歳以下)日本代表に選出される3人が、チームの看板だ。山村は守備だけでなく、パスセンスも抜群で、中野雄二監督は「10年に一人の逸材」と評価する。増田もセービングに安定感があり、比嘉は、並外れたスピードと運動量で存在感を発揮する。このほか、世代別の日本代表に選ばれた選手も多く、「流経大史上、最もメンバーがそろった」と中野監督。去年は初戦で敗れているだけに、気合十分で1回戦に臨む。

仙台大は、震災で約1か月間練習できなかったハンデを乗り越え、出場権をつかんだ。前回得点王のFW⑨奥埜博亮(4年)は、今年もゴール量産の気配だ。171cmと上背はないが、吉井秀邦監督は「ボールを奪われず、シュート技術が高い」。既にJ1ベガルタ仙台に入団が内定しており、絶対的エースとして信頼も厚い。震災後はサッカーをする気持ちにならなかった選手もいたが、総理大臣杯での勝利を目標に、「サッカーをする意義を取り戻す大会にしたい」(吉井監督)と意欲的。充実した練習を重ねて進化した姿を見せたい。

(読売新聞大阪運動部 安田栄一)

阪南大学 VS 浜松大学 15:30 KICK OFF 於：キンチョウスタジアム

攻撃的なサッカーを持ち味とする両チームが激突する。

3年ぶり出場の阪南大は、関西学生選手権を制し、波に乗る。キーマンになるのは主将のMF⑭井上翔太(4年)と、⑪泉澤仁(2年)だ。井上は右ひざのケガから復帰したばかりだが、決定的なパスを供給し、「背中で引っ張る阪南のエース」と須佐徹太郎監督の信頼も厚い。「スピードを生かし、相手の裏を狙わせるため」(須佐監督)と、FWから一列下げて起用される泉澤は、相手を翻弄する素早い動きが持ち味。選手権で4試合5得点と決定力も抜群で、大量得点も期待できる。

対する浜松大は6年ぶりの出場。チームの中心は、「どんなプレーをさせても天才的」と、長澤和明監督が絶賛する⑧MF増田誠也(4年)だ。相手との駆け引きやボールコントロールにたけており、自らドリブルで仕掛けるだけでなく、得点を演出するパスも出す。長澤監督は「背の高いFWがないから、細かい足元のパスをつなぐしかない」と言うが、増田を中心にしたポジションサッカーは見ものだ。「自分たちが楽しめるサッカーをやって、勝てればいい」と長澤監督。素早いパスで中盤を制することで、勝機は見えてくる。

(読売新聞大阪運動部 安田栄一)

国士舘大学 VS 福岡大学 18:00 KICK OFF 於：キンチョウスタジアム

昨年は準決勝で涙をのんだ国士舘大。「相手より一歩でも多く、一歩でも速く」をモットーに、頂点への思いは強い。細田三二監督も「1戦1戦にすべてをかける」と意気込んでいる。攻撃の中心は、チームの核でもあるMF⑩吉野峻光(4年)。Jクラブが注目するテクニシャンは、一瞬のスピードで相手を抜き去り、ゴールを陥れる。守備では、前線からの果敢なプレスが持ち味だが、高さのある福岡大戦では、空中戦に強いセンターバックのDF④大久保翼(4年)の出来が、勝敗の鍵になりそうだ。

絶対的エースだった永井(現名古屋)が抜けた福岡大。乾真寛監督は「チームはまだ道半ばの状態」と控えめだが、能力の高い選手がずらりとそろそろ。一昨年の優勝も経験したFW⑩石津大介(4年)は巧みなドリブル突破とゴールへの嗅覚が魅力。21歳以下の日本代表経験があり、1対1に強さを見せるDF④牟田雄祐(3年)を中心とした守備も強固。そして「ポスト永井」の期待を集めるのが、九州大学トーナメント最優秀新人賞のFW29山崎凌吾(1年)。高ささと速さを兼ね備え、総理大臣杯出場をかけた鹿屋体育大との一戦で先制ゴールを挙げるなど勝負強さも光る。2年ぶりの頂点へ、「新生・福岡大」が挑む。

(読売新聞大阪運動部 岡田浩幸)

広島経済大学VS明治大学 15:30 KICK OFF 三木総合防災公園陸上競技場

広島経済大にとっては、雪辱の舞台にしたい。明治大には2004年の総理大臣杯で0-3で完敗。06年の全日本大学選手権では終盤に連続失点し、1-2で涙をのんだ。友松修部長は「苦い経験をさせられているので、借りを返したい」と燃えている。高校時代を含め、今回初めて全国大会を経験する選手が多く、年代別代表もないこともあり、<雑草軍団>を自任する。左サイドハーフの41児玉教幸(2年)がキーマン。走力があり、クロスの精度も高い。身長185センチの1トップ、⑨井上友輔(1年)に好球を送れば、課題の決定力不足も克服できるはずだ。

明治大は、昨年と比べると戦力ダウンは否めない。J1磐田に入った山田大記、小林裕紀の両MF、J2千葉に入団したFW久保裕一ら4年生が抜けた穴を埋め切れず、関東リーグ前期は12チーム中6位(6月26日現在)と、調子が上がらない。神川監督は「甘い部分がある。選手も気づき始めているので、しっかりと修正できれば結果を残せる」と、奮起を期待する。特に失点が多いだけに、守備の立て直しが急務だ。注目は、左サイドバックに入る⑭松藤正伸(1年)。OBの長友佑都(インテル・ミラノ)に負けにくいぐらいの走力で、好機を演出しそうだ。

(読売新聞大阪運動部 清水裕)

中京大学VS桃山学院大学 18:00 KICK OFF 三木総合防災公園陸上競技場

前回と、昨年度の全日本大学選手権で準優勝の中京大。あと一歩で涙をのんだ経験を、今回に生かすことができるか。「去年までとは全く違うチームになった。どれくらい通用するのか、チャレンジしたい」と言う西ヶ谷隆之監督は、積極的に若手を起用する。MF⑦南部健造(1年)やMF⑧牧野修造(1年)らの中盤より前に配置し、「相手に合わせ、勝つために臨機応変にサッカーをやっていく。安定感はまだないが、足元を見て、しっかりやっていく」と西ヶ谷監督。若いチームだけに、勢いに乗って上位進出をうかがう。

桃山学院大は、関西学生選手権の3位決定戦で関西大をPK戦の末に下し、総理大臣杯の出場権を手にした。4年ぶりとなる今回も、粘り強く戦いたいところだ。チームのカギを握るのは、⑮面家康生(3年)と⑯須ノ又論(4年)の両ボランチ。「二人とも攻撃も守備も、バランスを取るのがうまい」と楚輪博監督。主将の須ノ又は好機を呼ぶパスを前線に供給し、一方の面家は、チャンスで積極的に仕掛けるドリブルが魅力だという。楚輪監督は今年就任したばかりとあって、「フレッシュな気持ちで臨みたい。全員で守り、攻める」と話す。

(読売新聞大阪運動部 安田栄一)

高知大学VS北海道教育大学岩見沢校 15:30 KICKOFF J-GREEN堺

昨季は総理大臣杯でベスト8入り、全日本大学選手権では3位と好成績を残した高知大。J1川崎入りした實藤ら主力が抜けたが、野地照樹監督は「控えだった選手がしっかり穴を埋めている。戦力ダウンとは考えていない」と自信を見せる。DF②岩崎将斗(4年)はカバーリング能力が高く、実藤の抜けたDFラインを統率。攻撃では、パスセンスに優れたMF⑩竹内宏次郎(3年)が起点となり、FW⑨福本圭(3年)は決定力が高い。「暑さ対策が重要だが、攻撃的にいきたい」と野地監督。一昨年の総理大臣杯は決勝で敗れており、21回目の出場となる今大会で、悲願の頂点を目指す。

初出場の北海道教育大岩見沢校だが、選手の多くがJ2札幌のU-18や道内の強豪高校出身で、全国の舞台は経験済み。越山賢一監督は「頼もしいくらい。不安はない」と笑顔を見せる。基本布陣は4-4-2。中盤の細かいパス回しで相手を崩すのが本来のスタイルだが、「全国の強豪相手にそうはいかないだろう。柔軟に対応したい」と越山監督。全日本大学選手権に3年連続出場している不動の守護神・GK①岩田健太郎(4年)は安定感があり、FW⑨内田圭祐(4年)、MF⑭船場俊介(4年)は1対1で強さを発揮する。1回戦の相手・高知大とは合同で春期合宿を行っており、互いに手の内を知り尽くした相手。全員が90分間、ハードワークをいとわずプレーすることが、初戦突破の鍵となりそうだ。

(読売新聞大阪運動部 岡田浩幸)

大阪体育大学VS早稲田大学 18:00 KICKOFF J-GREEN堺

大阪体育大は、前線や中盤から積極的にプレスをかけ、高い位置でボールを奪う、伝統の「堅守」から試合の主導権を握りたい。2008年に大会を制した坂本康博総監督は「うちは美しく展開するサッカーができるわけじゃない。辛抱強くできるかが鍵」と話す。経験豊富なDF④濱上孝次(3年)は鋭い読みと1対1の強さに磨きがかかった。攻撃の核となる主将のMF⑦廣岡太貴(4年)が教育実習などで調整不足なのは気になるが、FWの⑩脇睦(3年)、⑥山本大稀(2年)らの奮起に期待したい。昨年は1回戦で国士舘大に敗れており、「打倒・関東勢」の決意は固い。

3年ぶりに出場の早稲田大も守備に自信をみせる。古賀聡監督は「守備のベース固めを継続して取り組んできた。けが人もなく、ベストの状態に臨める」と話す。その要はDF④畑尾大翔(3年)。FC東京U-18出身のセンターバックは、技術も高く、強いリーダーシップでチームを鼓舞する。攻撃ではFW⑩小井土翔(4年)に期待がかかる。DFの背後を突く動きは相手にとって脅威で、高い位置からの、体を張った献身的な守備も光る。チームは関東1部リーグでも首位を走っており(第8節終了時点)、2007年の全日本大学選手権以来の全国優勝へ、チームの士気は高い。

(読売新聞大阪運動部 岡田浩幸)

みんなが愛する
サッカーのように
心をひとつに



Tシャツ・缶バッジ・ミニフラッグを発売

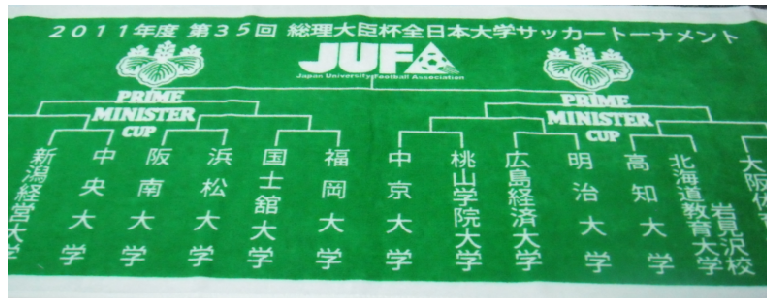


サッカーを通して私たちにできること
～Loop to football～
グッズの収益の一部は支援金となります



記念タオルや
チームストラップなど発売！
～ご観戦の記念に・・・～

まずは、ゲートにGO !!



～ご来場の皆様へ～

試合のメンバー表はご来場の方々全員への配布は出来ません。
メンバー表はゲート付近にも掲示しており、また、試合前やハーフタイムにも放送しております。
お手持ちのプログラム等をご活用頂き、予めご了承くださいませようお願いします。

関西学生サッカーの聖地作り・・・それがわたしたちの夢。



関西学生サッカー未来・夢倶楽部

わたしたち、関西学生サッカー連盟は学生の、学生による、学生らしいサッカー、をモットーに、
清濁しさを、若々しさを、ひた向きさを、目指しています。
このような様々な思いを抱いてプレーし、想いを表現できる自分たちのピッチがあればいいなと
夢見ています。
わたしたち、関西学生サッカー連盟はホームスタジアム(仮称Sスタジアム)を持つという目標を
「未来・夢構想」としました。

わたしたちの未来・夢構想に賛同協力して頂ける支援者を求めています。
支援者の集まりを「関西学生サッカー未来・夢倶楽部」と名づけました。
どうか支援者として未来・夢倶楽部に仲間入りして頂くようお願い申し上げます。

Sスタジアムに行けば関西学生サッカーが見られる。
Sスタジアムに行けば関西学生サッカープレーヤーに会える。
Sスタジアムに行けば好きな大学チームのゲームが見られる。
Sスタジアムに行けばサッカー仲間に出会える。



スタジアムに行けば仲間に出会える！

未来・夢倶楽部会員はいつでも観戦無料

詳細は入場ゲートにて！



大会プログラム好評発売中！！ ～選手情報が満載 1冊1,000円～
前売りチケット発売中！！ ～準決勝以降は有料。ゲートにて絶賛発売中～

